

# ヒブワクチン予防接種(初回)について

## 【 病気の説明 】

インフルエンザ菌はヒトからヒトへ飛沫感染し、特にヒブ(インフルエンザ菌)は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの原因となるほか、髄膜炎、敗血症、肺炎など重篤な全身感染症を引き起こします。ヒブによる細菌性髄膜炎は、5歳未満の乳幼児がかかりやすく、死亡したり後遺症を残したりすることがあります。

【 対象者 】 生後2か月から5歳の誕生日の前日までの者

## 【 接種間隔・接種回数 】

生後2か月から6か月の間に接種を開始した場合：合計3回接種

1歳までに27日～56日の間隔で3回接種します。

(初回接種において、医師が必要と認めた場合は20日の間隔で接種可)

(注意) 1回目を生後何か月に接種したかにより、合計の接種回数が異なります。

詳細は、“予防接種と子どもの健康”をご覧ください。

具体的な接種スケジュール等はかかりつけ医と相談しながら計画を立ててください。

## 【 副反応 】

主な副反応は、接種部位の発赤、腫れ、しこり、疼痛などの局所反応です。

また、発熱が数%に起こります。重い副反応として、まれですが、ショック、アナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病などの報告があります。

# 小児肺炎球菌ワクチン接種(初回)について

## 【 病気の説明 】

肺炎球菌は、鼻やのどに感染し、中耳炎、副鼻腔炎などの気道感染症や、ときに化膿性髄膜炎、敗血症、肺炎など重い全身感染症を引き起こします。特に、肺炎球菌による細菌性髄膜炎は、初期症状がかぜに似ているため判別が難しいだけでなく、死亡したり後遺症を残したりすることがあります。

【 対象者 】 生後2か月から5歳の誕生日の前日までの者

## 【 接種間隔・接種回数 】

生後2か月から6か月の間に接種を開始した場合：合計3回接種

1歳までに27日以上の間隔で3回接種します。

(注意) 1回目を生後何か月に接種したかにより、合計の接種回数が異なります。

詳細は、“予防接種と子どもの健康”をご覧ください。

具体的な接種スケジュール等はかかりつけ医と相談しながら計画を立ててください。

## 【 副反応 】

主な副反応は、接種部位の発赤、腫れといった局所反応です。また、発熱がみられることもあります。重い副反応として、まれですが、ショック、アナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病などの報告があります。

# B型肝炎ワクチン予防接種について

## 【 病気の説明 】

B型肝炎ウイルスは、血液や体液を介してヒトの肝臓に感染し、急性肝炎となり回復する場合と、慢性肝炎になる場合があります。また、症状が明らかにならないままウイルスが肝臓の中に潜み（持続感染）、年月を経て、慢性肝炎・肝硬変・肝細胞がんなどになることもあります。出生時または乳幼児期に感染すると、持続感染の形をとりやすいことが知られています。

## 【 ワクチン接種前の注意点 】

製剤によっては、ワクチン瓶のゴム栓に乾燥天然ゴム（ラテックス）を使用しているため、ラテックス過敏症のある場合は注意が必要になります。かかりつけ医と相談してください。

【 対象者 】 生後2か月から1歳の誕生日の前日までの者

## 【 接種間隔・接種回数 】

1回目から2回目は27日以上あけて、2回目から3回目は、1回目から139日以上の間隔をおいて3回接種します。

## 【 副反応 】

主な副反応は、倦怠感、頭痛、接種部位のはれ、発赤、疼痛などの局所反応です。重い副反応として、まれですが、ショック、アナフィラキシー、多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎、ギランバレー症候群などの報告があります。

# ロタウイルスワクチン予防接種について

## 【 病気の説明 】

ロタウイルスは、乳幼児にみられる胃腸炎の主な原因のひとつです。多くの場合は、突然の嘔吐、発熱に続き、水溶性下痢を起こし白色の下痢便が特徴的です。ほとんどの場合は、特に治療を行わなくても自然に回復します。しかし、下痢や嘔吐が続くことによる脱水や腎不全のため入院治療が必要になったり、まれに脳症といった合併症を起こしたりすることがあります。

## 【 ワクチンの効果と種類 】

ロタウイルスワクチンを接種することで、重症胃腸炎を減らすことができます。ワクチンは2種類あり、どちらも生ワクチン（弱毒化したウイルス）で、飲むワクチンです。医療機関で相談し、どちらかのワクチンを選んでください。

ワクチンには1価生ワクチン（ロタリックス）と5価生ワクチン（ロタテック）があり、接種方法は経口接種です。どちらのワクチンも効果は同等で、2回目以降も1回目と同じワクチンを接種します。ロタウイルスの感染による胃腸炎を約8割予防することができます。ただし、ロタウイルス以外の原因による胃腸炎には予防効果を示しません。

## 【 ワクチン接種前の注意点 】

- 初回1回目の接種は、出生6週0日後から接種できますが、標準的な接種時期とし、出生8週0日後からの接種を勧めています。出生15週0日以降の初回接種はおすすめしていません。（厚生労働省による）
- 赤ちゃんのお腹がいっぱいと、上手にワクチンが飲めない場合がありますので、接種直前（30分以内）は授乳を控えることをお勧めします。なお、ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題はありませんので、再度接種する必要はありません。